

文献を探す

文献入手と所蔵館調査

岩 下 愛

抄録：病院図書館で扱うことの多い、雑誌文献について、手間をかけず、短時間で、安価に入手することを考える。文献調査でデータベースを検索し、書誌が確認できない時は、発行元ホームページの目次情報を参考にしたり、無料の電子ジャーナルを探す際は、文献の特徴をとらえて既存のサイトを活用すると効率的に探すことができる。文献の入手に手間取る場合については、国立国際医療センター図書館での手順を紹介しつつ、相互貸借業務を軽減し、利用者と資料をスムーズに結びつけるため、サービスの向上と改善を提案したい。

Key words：病院図書館、電子ジャーナル、相互貸借、図書館サービス

I. はじめに

いかにスムーズに利用者と文献を結びつけるか。利用者は図書館での雑誌購読にかかわらず、今読みたい論文を、①手間をかけず、②できるだけ早く、③できれば安く、入手したいのではないだろうか。

国立国際医療センター図書館（以下、当館）では、文献検索において、利用者が現在の段

階を確認し、次の行動へと導くために、図書館ホームページに雑誌の探し方のフローチャート図を掲載している。視覚的に理解できるよう作成し、各種サービスへのリンクもあり、利用者への案内に活用している。文献複写などの申し込みがあれば、司書はこの流れを再びたどりながら業務を行う。

本稿では、この図の3つのSTEPにそって、病院図書館で扱うことの多い、雑誌文献の入手について主に述べる。なお、当館の実務では、各調査・確認の順番が変わったり、同時に行うこともある。状況に応じてアレンジしていただけると幸いである。

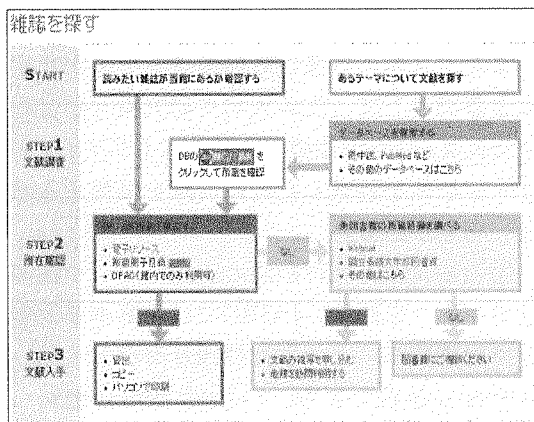


図1 フローチャート図「雑誌を探す」

II. 文献調査（書誌の確認）

利用者から特定の論文の入手を依頼された場合には、まず正確な書誌を再確認することから始めたい。

1. データベースを検索する

外国語雑誌の調査には、主にPubMedを使う。書誌の同定にはSingle Citation Matcherでの検索が便利である。

日本語雑誌の場合は、医中誌Web、

IWASHITA Ai

国立国際医療センター図書館

JDream II の有料データベースを使う。CiNii などでは、医学分野以外の文献や発行年の古い論文を探すことができる。

2. 発行元ホームページで雑誌の目次を見る

PubMedではJournal Databaseでタイトルを検索し [NLMID] をクリックすると、NLM Catalogのデータが表示される。電子ジャーナルのリンク先URLのほか、索引されている期間や分野、略誌名などの情報を得られる。

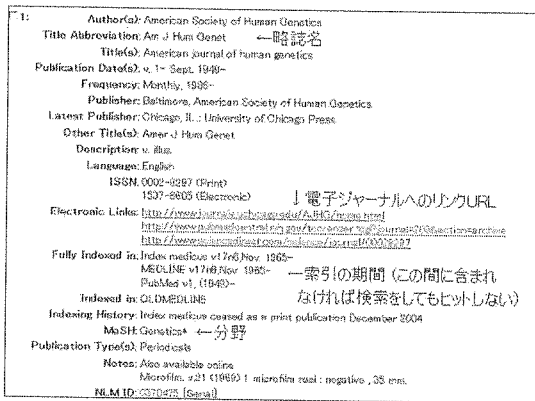


図2 NLM Catalogの表示例

また、医中誌Webでは、取雑誌検索に発行所に関するデータがあり、雑誌のホームページを探すヒントとなる。

3. サーチエンジンで検索する

GoogleやYahoo!の検索ボックスに雑誌タイトルや論文名を入力し、検索してみる。当館では、著者のホームページに文献を見つけたことがあった。

Ⅲ. 所在確認

書誌の確認ができたなら、次に文献の所在を調査する。当館では「文献調査」の過程で、同時に無料電子ジャーナルの調査を行っている。

1. 自館の所蔵を再確認する

自館の所蔵を見落としていないか、冊子だけでなく契約している電子ジャーナルも探す (特に、冊子を購読すれば追加料金なしで電

子ジャーナルが利用できる場合、必ず登録作業を済ませておく)。

利用者が所蔵資料を探せなかったケースでは、その要因がどこにあったのだろうか？ 自館の目録情報と資料が合致しているか、ルールにそった配架になっているか、電子ジャーナルリストのメンテナンスを行っているかなど、司書が資料の所在を把握しているだけでなく、利用者自身がスムーズに資料を入手できるような環境を整備しておくことが望ましい。所蔵目録の形態も工夫するとよい。

2. 無料の電子ジャーナルを探す

最近、多くのデータベースでは、電子ジャーナルへのリンクなど様々なアイコンが表示される。PubMedの検索結果 (Abstract表示画面など) では、アイコン内にFreeの文字が書かれている。

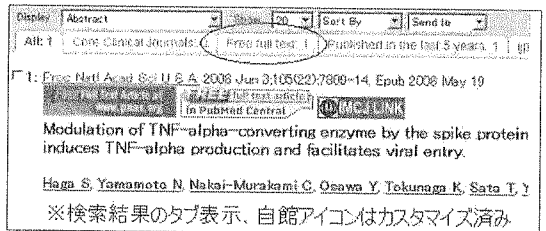


図3 PubMed無料本文リンクを示すアイコン例

また、文献の特徴から無料アクセスが想定できる例として、①各大学や研究機関が発行する紀要、②公共性のある診療ガイドライン、③一定期間を経過した後に文献を公開する学会、などがある。

①の場合は、発行機関のWebページや機関リポジトリを探す。JAIROでは、日本の大学や研究機関80以上の学術機関リポジトリをいっぺんに検索できる。CiNiiの検索結果から

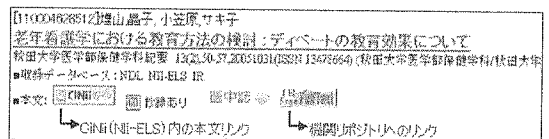


図4 CiNii検索結果のアイコン例

機関リポジトリの論文へ直接リンクするサービスも開始された。

②の場合は、東邦大学医学メディアセンターの診療ガイドラインやMindsを参照する。

③について、各データベースから電子ジャーナルへのリンクがない場合は、オープンアクセスジャーナルをまとめたDOAJやDOAJ in Japanを検索する。

3. 図書館ネットワークの目録にあたる

自館や無料電子ジャーナルで見つからなかったら、まず所属しているネットワークや地域の図書館の目録を確認し、見つからなければWebcatを探す。

4. 探し方のコツ

効率よく探すために、論文や雑誌の特徴を考え、検索するサイトの順番と得られる情報を頭に描いてみよう。また、自館が所属するネットワークや近隣の大学図書館のサイトを日頃から使ってみるとよい。便利なツールや新しい情報を発見できるかもしれない。

本稿では設定についての説明を省くが、自館の所蔵情報をPubMedや医中誌Webなどに組み入れることができる。データベースの検索結果に自館の所蔵情報を表示すれば、効率よく利用者と資料を結びつけることができ、図書館サービスのアピールにもなる。費用もかからないので、司書業務のひとつとして、データベースのカスタマイズにチャレンジしてほしい。

IV. 文献入手

1. 相互貸借を申し込む

所属しているネットワークや地域の図書館を優先し、申し込み先の順番を決定する。原則として、紀要や病院誌などは発行元に申し込む（Webcatで見つからない場合は、直接問い合わせると対応してくれることもある）。相互貸借のルールを守り、必要であれば、事

前の書誌調査の状況など、依頼先図書館での作業が円滑になるよう、コメントを記入する。

2. 入手に手間取る場合（Epub論文）

電子ジャーナルでしか読めない論文や冊子の発行に先がけてWebページに掲載された論文（PubMedの検索結果には[Epub ahead of print]と表示される）の入手を求められた時、冊子では対応ができない。その場合にもWebcatで雑誌名を検索し、タイトルに[コンピュータファイル（リモートファイル）]と付いた書誌から、電子ジャーナルの所蔵館が分かる。文献複写を受け付ける図書館には「ILL可」の表示がある。

NACSIS Webcat: 簡略表示	
[期間の手引き] [検索画面に戻る]	
該当件数は 2 件です	
1.	<i>Annals of neurology</i> . -- (1977)-
2.	<i>Annals of neurology</i> [コンピュータファイル (リモートファイル)]. -- Vol. 1, 45, issue 1 (1999)-

図5 Webcat検索結果の表示例

電子ジャーナルに掲載された論文の相互貸借の可否は、出版社との契約や当該図書館の方針などによって異なる。多くの出版社や学会では、プリントアウトした文献を送付することは認めているようだ。

Epub論文の入手の手順として、現在当館では、①Webcatで電子ジャーナルの所蔵館を検索し、受入継続中の図書館をピックアップする、②日本医学図書館協会（JMLA）が発行する「現行医学雑誌所在目録」に掲載された電子ジャーナルの受付可否の情報を確認して、申し込むことにしている。

また、Webcatに電子ジャーナルの書誌がない場合、冊子所蔵館のうち受入継続中の図書館へ相談させていただいたり、外部機関に手配したり、出版社サイトで論文単位の購入を提案したり、利用者の希望を踏まえて対応をしている。

3. 受付館の事情

物理的に冊子を管理するのと異なり、数千タイトルを超える電子ジャーナルの契約内容やアクセス情報の管理には非常に手間がかかる。

また、電子ジャーナルをパッケージで契約する場合、利用可能なタイトルやアクセス期間の変動があり、タイトル毎、出版社毎に相互貸借へ利用してよいか契約条件が異なるため、今のところ、当館では、NACSIS-CATへの電子ジャーナルの目録データ登録を控えている。現状としては、電子ジャーナル論文の相互貸借の相談があった際、個別に契約状況を確認して対応している。

4. 相互貸借を楽にする (NACSISへの参加)

当館では、2002年9月にNACSIS-ILLへ参加し、2005年4月から料金相殺サービスを利用している。このシステムにより、相互貸借の業務を軽減することができた。具体的には、謝絶時は次の図書館に自動転送されるため作業が滞らなくなった、相互貸借の申込書式にこだわらなくてもよい、司書不在時はシステムを停止でき一時的に受付休止することが可能、申し込む図書館が広がった等のメリットを感じている。

また、これまで依頼するばかりだった大学図書館から、当館所蔵のレアジャーナルへの複写申込が届くようになり、図書館の規模に関係なく、ほんの少しでも貢献できているという相互関係が励みとなる。

NACSIS-CAT/ILLのサービス利用料金はかからず、ブラウザから利用できるWebUIPというシステムもある。学術情報資源の共有と相互利用という理念を理解し、自館のサービス向上のために、参加を検討してはどうか。

V. おわりに

当館では、利用者の求める資料を効率よく

調査し、迅速に提供するよう心がけている。既存の資料やデータベースを活用できるような講習会やマニュアルの作成も積極的に行っている。時には十分に時間をかけ様々なサイトを探したり、誰かに質問したり、あるいは時間制限を設けて検索を試みたり、調査の過程を記憶、記録して蓄積するとともに、次の依頼に対応できるような準備をするとよいだろう。司書には、図書館サービスの向上のため、常に新しいツールやシステムの知識を得て、自館の運営に取り入れる努力が求められるのではないかと。

また、図書館の業務は、相互協力の上に成り立っていることを心に留め、良好な関係を築いていくことが大切である。より一層利用者に役立つ図書館となるよう、日々の業務を振り返り、小さな工夫を積み重ね、サービスの改善につなげよう。

参考URL

- 1) 学術機関リポジトリポータルJAIRO :
<http://jairo.nii.ac.jp/>
- 2) 診療ガイドライン(東邦大学医学メディアセンター) :
<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/guideline/index.htm>
- 3) Minds医療情報サービス :
<http://minds.jcqh.or.jp/>
- 4) DOAJ : Directory of Open Access Journals
<http://www.doaj.org/>
- 5) DOAJ in Japan : Directory of Open Access Journals in JAPAN(実践女子大学図書館) :
http://jcross.jissen.ac.jp/atoz/index.html?b_type=AtoZDOAJJ
- 6) 目録所在情報サービス 参加方法 :
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/join/>

参考文献

- 1) 鈴木宏子、鶴岡眞知子. ILLサービスにおける機関リポジトリとオープンアクセスのインパクト：千葉大学の経験から. 専門図書館. 2008；228：1-5.
- 2) 宇野彰男、伊藤茂樹：電子ジャーナルの相互貸借利用アンケート結果に見るその問題点. 医学図書館 2004；51(2)：147-51.
- 3) 春日井泉江. 文献入手の可能性を広げよう病院図書館における相互貸借. 病院図書館 2006；26(4)：167-70.
- 4) 伊藤民雄. オープンアクセスコンテンツを活用する電子リソース検索：実践女子大学図書館が提供するOPACと横断検索. 情報管理 2008；51(3)：174-83.
http://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/51/3/51_174/_article/-char/ja